

電力会社で生物系の研究？ 実はたくさんあるんです。

津田その子（中部電力㈱ 技術開発本部 エネルギー応用研究所 研究副主査）

仕事の内容とやりがい

電力会社にも農学・理学など生物系出身者が集まる研究部署があり、電気事業に伴う生物に関わる研究課題に取り組んでいます。設備周辺で見つけた絶滅危惧種の保護技術や、生物多様性に配慮した緑化技術など、緑を守り環境と共生する電力会社を実現するのが私のテーマです。また、省エネにつながる屋上緑化システムの開発、地域の産業振興につながるキク新品種「アロمام」の開発など、社外のお客さまとの接点が多い研究もあり、たくさんの方々との出会いが大切な財産になっています。開発した技術や製品が実際に世の中にできるのも醍醐味ですね。

進路決定のきっかけ

小さい頃から「地球が緑でいっぱいだったらいいな」と思いながら科学雑誌を読み、太陽をいっぱい浴びて植物を育てたいと農学部に入り、なるべく規模の大きい工学系の民間企業で、環境と共生する事業を目指してみたいと考えていたところ、電力会社とご縁があり就職しました。電気があって当たり前前の世の中で、もっとずっと前から当たり前にあった自然の大切さを、会社の中から問いかけていきたいと思っています。

仕事と生活のバランス

仕事は制限されずのびのびやりたい、家族とも充実した時間をすごしたい、と大変欲張りなのですが、夫、子どもたち、同居の義母妹、実家の父母など、あらゆる人に助けをもらい、職場の理解とフレックスタイム制の恩恵も受けて感謝感謝の毎日です。残業や出張が続くと子どもたちも不安定になりがちですが、帰宅すると一緒にベッドに潜り込んで思春期前の貴重なスキンシップを楽しんでいます。年に一度は気の合う仲間と南の島へシュノーケリング。このときは仕事も家族もほったらかしてリフレッシュさせてもらっています。

進路選択に対してのメッセージ

自分の興味がある分野であることは、仕事を楽しむ上で重要ですが、自分が想像できない新しい発見と出会うのも、楽しく生きていくエッセンスだと思っています。電力会社が生物研究を行っているように、意外な場所で自分の専門が生かせるかもしれません。いろんな可能性を試すつもりで、進路選択の視野は広げてみてはいかがでしょうか？



＜津田その子（つだそのこ）プロフィール＞

1987年 名古屋市立菊里高校卒業
1993年 名古屋大学大学院農学研究科博士課程前期課程修了
1993年 中部電力㈱に専門研究員として入社
入社4年目に社内結婚、子どもは娘1人、息子1人。